

知的障害特別支援学校高等部の作業学習等における作業種「商品管理」

— 教材の構造と授業設計 —

Work “merchandise management” of work study in the upper secondary department of a school
for intellectually disabled students

— Composition of Teaching materials and a class design —

渡 辺 明 広

Akihiro WATANABE

（平成21年10月6日受理）

要 旨

2003（平成15）年度から実施された学習指導要領によって、知的障害特別支援学校高等部においては、専門教育の中に流通やサービスに関する基礎的・基本的な内容で構成される教科として[流通・サービス]が設置された。各地の特別支援学校においては、生徒や施設・設備等の学校の実態、地域の産業の事情を考慮し、適切な内容を選択し、重点的に取り扱った教育実践が始まっている。しかし、「商品管理」の分野については、学校の作業室では、実際的な作業活動の量が確保しにくいことや作業環境が設定しにくいといった理由で、その実施状況は低調である。

本稿では、先行的な取り組みをしている4校における聞き取り調査等をもとに、「商品管理」についての教材（題材）の構成と授業設計を図ることを目的とした。「商品管理」の特徴と意義、目標の設定、学習内容と題材、指導計画、授業時数、評価等の面から教材（題材）の構成を検討し、また、題材と本時の目標設定、学習グループ、授業の展開、生徒へのかかわり方、評価等から授業設計を行った。

はじめに

（[流通・サービス]科の設置と背景）

2003（平成15）年度から実施された盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領によって、知的障害養護学校（現在は特別支援学校）においては、職業に関する専門教科（選択教科）に流通業やサービス産業に関する基礎的・基本的な内容で構成される教科として[流通・サービス]が設置された。これは、職業教育の一層の充実を図るもので、[流通・サービス]科の目標として、商品の流通や清掃などのサービスに関する産業についての基礎的な知識と技術を習得すること、産業社会における流通業やサービス業の意義と役割の理解を深めること、流通やサービス業に関する職業に必要な能力と実践的な態度を育成することが示されている。また、[流

通・サービス]科の内容としては、流通やサービスについての興味・関心を高め、意欲的に実習に参加すること、流通やサービスに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、適切に接客、応対する態度を身に付けること、「商品管理」「販売」「清掃」「事務」の分野に必要な知識と技術を習得し、実際に活用することなどが挙げられている。⁵⁾

[流通・サービス]科が設置された背景には、近年のわが国の産業構造の変化等により、特別支援学校高等部の卒業後の進路として、第3次産業を選ぶ生徒が増えてきている事情が指摘されよう。サービス職業の占める割合が増加してきており、2008（平成20）年3月の知的障害特別支援学校高等部（本科）卒業者の職業別就職者の割合は、生産工程・労務作業（就職者の46.8%）について、サービス職業が25.7%、他に販売従事者10.6%、事務従事者3.7%である（文部科学省「特別支援教育資料」）。⁷⁾

（分野「商品管理」の学習）

[流通・サービス]の分野の中では、「商品管理」についての取り組みは進んでいない。渡辺（2007）は、軽度の知的障害生徒を対象に職業教育を重視する高等特別支援学校等70校に対して、教科[流通・サービス]の設置や他の教科や作業学習の中での「流通・サービス」の実施状況についてのアンケート調査を行っているが、分野別の学習活動の実施率は「販売」（66.6%）、「清掃」（60.3%）、「喫茶サービス」（28.9%）、「事務」（26.3%）、「商品管理」（17.2%）、「介護」（13.4%）の順であった。[流通・サービス]科が設置されて5年目を迎えた時点であったが、学校による取り組み状況の差は大きく、また、全般的には低調であった。特に「商品管理」や「介護」の実施率は低い。「流通・サービス」をあまり実施していないと回答した学校からは、「職業教育（作業学習）の中心が製作や生産などの作業活動であるため」といった理由が一番多く、このほか、「必要な施設、設備、備品（機械や道具等）が備わっていないため」や「まだ、教育課程の編成の際にあまり話題になっていないため」「教員の流通・サービスについての専門性がまだ十分でないため」であった。³⁾「商品管理」について言えば、教材の特性から学校内においては十分な作業量が確保しにくい、ということも言えよう。

一般的に、職業教育は特定の職業に就くために必要な知識・技能及び態度を習得させる目的をもって行われる職業準備教育を意味するが、従来、知的障害教育における作業学習は、職業準備教育そのものではなく、職業生活及び社会生活に必要な働く力ないし生活する力を高め、より自立的な社会参加を図るといった幅広いねらいを有してきた。作業種目の「商品管理」も学習内容を精選し、段階的、継続的に進めることで、働くことの意義を理解し、働く喜びを味わうことによって、働く生活に必要な力を培うことが期待できる。

（「商品管理」についての教材の構造や授業設計）

「商品管理」の学習活動の例として、「平成21年度新教育課程説明会資料（特別支援学校）高等部総則等」（平成21年7月 文部科学省）には、・箱詰めやパレット積みなどの品物の収納に関する事、・倉庫における保管に関する事、・台車、コンベア、フォークリフト等を使った商品の運搬方法の知識と技術に関する事、・運送に関する事、・商品管理に必要な伝票の記入と取扱いに関する事など、の5点が示されている。⁹⁾ これらを踏まえ、各地の知的障害特別支援学校においては、生徒や施設・設備等の学校の実態、地域の産業の事情を配慮し、適切な内容を選択し、重点的に取り扱った先行的な教育実践が始まっているが、「清掃」や「介護」と比べ、いまだ基本的カリキュラムができていない。¹²⁾ 先行的な取り組みの成果を参考に、作業種「商品管理」の教材（題材）の構成と授業設計が求められる。

I. 目的

知的障害特別支援学校高等部（高等特別支援学校を含む）の職業に関する専門教科や作業学習で行われている、先行的な作業種「商品管理」の教育実践についての聞き取り調査等をもとに、「商品管理」についての教材（題材）の構成と授業設計を図ることを目的とする。

II. 方法

1 資料蒐集の対象（4校）のプロフィールと職業教育の概要

・A県立A高等養護学校（以下、A校）

高等部単独校（産業科）。学生定員は50名程度。1年次はコースに分かれない。2学年より、工芸コース（木工班、金工班）、産業コース（紙工班、縫工班）、窯業コース（窯業班、セメント班）の6つの班に分かれる。従来から履修している工業科、農業科の科目に加えて、2003（平成15）年度より「流通・サービス」科の多種類の分野を加え、企業就職を目指した職業教育を展開している。挨拶の励行や、作業の安全性を高めるための復唱、呼称と報告を行うことを重視してきたが、これは、流通・サービス（第3次産業）においても、働く者の基本的な姿勢として考えられている。

・B県立B高等特別支援学校（以下、B校）

2006（平成18）年度開校の高等部単独校（学年定員は48名）。介護と自然とのふれあいを学ぶ「福祉・園芸科」、ものづくりの地域に位置づく「ものづくり科」とこれからの就労先が見込まれる「流通サービス科」の3つの職業科を置き、就労を通じた潤いのある社会自立をめざす。「流通サービス科」は飲食業やホテルの客室清掃やベッドメイキング等を学ぶ「バックヤードサービス分野」、事務、印刷、物流等について学ぶ「オフィスサービス分野」を置く。1つの学科で2つの分野（内容）を学ぶことができる。

・A県立C養護学校C分校（以下、C校）

2006（平成18）年度開校の高等部単独校（学年定員は24名）。ものづくりから流通・サービスまで、働く基礎・基本の習得の後、実践的な知識・技能・態度の育成を図り、卒業後は一般企業等への就職をめざす。1年次では、専門教育に関する教科「工業」を週4単位時間履修する。2年次から、「ものづくりコース」と「流通・サービスコース」（「商品管理・販売」「清掃・福祉」）のいずれかを選択し、「流通・サービスコース」は週に「工業」（「紙工」）を4単位時間と「流通・サービス」を6時間履修する。3年次も同様である。

・K市立K養護学校（以下、K校）

1986（昭和61）年度開校の高等部単独校（普通科）。学年定員は20名（平成21年度より）。障害程度は比較的軽度者が多い。卒業後の就労生活を想定し、経験することを重視しながら「社会参加」「社会自立」できるよう、5つの作業コースで構成される作業学習と、社会生活学習、家庭生活学習からなる生活単元学習の2つの実践的な学習を軸とした教育課程を編成し、生徒の社会における「生き抜く力」の育成を目指す。印刷、木工、縫製、窯業、園芸の5つの作業コース（班）において、関連した販売や商品管理の内容や作業活動を多く取り入れている。

2 調査年月 : 2007年9月～12月

3 方法 : 関係資料の閲覧、担当教諭からの聞き取り、及び授業参観と学習指導案の閲覧

Ⅲ. 教材（題材）の構成

1 作業種の名称等

1999（平成11）年3月に告示（2003年度から実施）された盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領によって、専門教育に関する教科[流通・サービス]が創設されたが、「流通やサービス」に関する分野の1つに「商品管理」が挙げられた。⁵⁾ これを作業種の名称にしている学校が多い。ただし、「流通やサービス」に関する、「販売」、「事務」の分野ともかかわりが多く、総合的な作業活動が展開されている場合が多いため、「オフィスサービス分野」、「商品管理・販売」といった名称も散見できる。

2 作業種「商品管理」の特徴と意義

従来、知的障害特別支援学校（養護学校）の中学部や高等部では、職業教育（作業学習）中心の教育課程を編成してきたが、ものづくりの作業種がほとんどであった。その中で、自校の生徒の作業作品などを学校行事の際のバザーなどで販売したりすることは多く、これに関連して商品の包装、袋詰め、箱詰めといった商品管理（在庫管理）の作業内容や金銭の受け渡し、会計処理（事務）の学習活動が行われていた。ただし、作業作品等の製造や生産の量は多くはなかったので、商品管理を単独の学習活動として、継続的、系統的に展開する学校はなかった。

商品管理は、仕入れから販売完了に至る商品の流れを合理化し、効率化するための管理活動であって、他の分野（販売、事務など）との係わり合いを重視した学習が必要である。また、製造・生産のものづくり一辺倒ではなく、商品管理の内容を加えることで、材料の調達（仕入れ）から生産、消費にいたる実際の過程に携わり、物の流れ、社会の仕組み、人々の役割を学ぶことができる。また、顧客や消費者のニーズや注文を聞く機会をとおして、その気持ちに沿って仕事をするようになる。物との関わり、人との関わりとの両面にわたる成功体験から働く意欲と自信、さらにはキャリア発達につながることを期待できる。

物流に関する事業所においては、輸送・在庫管理の職務内容は多岐にわたり、また扱う業務量も多い。学校内で取り組む場合は、事業所から業務を請け負って受注作業を行わない限りは作業量そのものの確保が十分でないため、年間を通した作業を行うことは難しい。打開策としては、作業学習等で大量生産を行い、その販売にかかわって、商品管理、事務の内容を総合的に、計画的に行うとか、学校で使用する事務用品の管理にあたって、教職員の事務補助を進める等、計画的、専属的に取り組める業務をより具体的に洗い出し、通年の作業班として編成することも考えられる。

3 目標の設定

2003（平成15）年度から実施されていた盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領の「第2章 各教科 第2節 知的障害者を教育する養護学校」の専門教育に関する教科[流通・サービス]の目標は次のとおりである。⁵⁾（2009年3月告示の新学習指導要領も同様の記述である。⁸⁾）

流通やサービスに関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、それらの意義と役割の

理解を深めるとともに、流通とサービスに関する職業に必要な能力と実践的な態度を育てる。

学習指導要領の解説によれば、「流通やサービスに関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り」とは、流通やサービスに関する様々な職業に関することや商品の生産から商品が顧客に渡るまでの基本的な流れに関すること、清掃や事務などのサービス業務に関することの基礎的な知識やその職業で必要とする技能のことである、と説明している。また、「必要な能力と実践的な態度を育てる」とは、商品等の適切な取扱いに関することや接客に関する望ましい態度を身に付けることなどを指している、と説明される。^{6) 9)} なかんずく、専門教育に関する教科の流通・サービス科や領域、教科を合わせた指導形態である作業学習において実施されている分野（作業種）「商品管理」は、商品の生産から顧客（消費）に至る基本的な流れを理解させ、商品等の適切な取扱いのための知識、技能や実践的な態度の育成が中心の目標である。さらに、卒業後に一般企業への就労を目指す生徒については、産業現場等における実習を関連させて、職業自立に向けてより実践的な作業能力を養う。

4 学習内容と題材

学習指導要領には、教科[流通・サービス]の内容は「実習への参加」「知識と技術、及び態度の習得」「機器や機械等の操作」「流通やサービスに関する各分野」の4つの観点で示し、教科の内容は地域や学校の実態などを考慮して適切な内容を選択し、重点的に取り扱うもの、としている。^{6) 9)}

また、学習指導要領の解説では、「流通やサービスに関する各分野」の「商品管理」についての学習活動として、

- ・箱詰めやパレット積みなどの品物の収納に関すること
- ・倉庫における保管に関すること
- ・台車、コンベア、フォークリフト等を使った商品の運搬方法の知識と技術に関すること
- ・運送に関すること
- ・商品管理に必要な伝票の記入と取扱いに関することなど

の5点が示されている。^{6) 9)}

資料を収集した4校の知的障害特別支援学校高等部（高等特別支援学校）の作業種「商品管理」の指導実践から、学習内容と題材を列挙すれば、次のとおりである。^{1) 2) 3) 4) 5) 10) 11)}

- ・台車の使い方
- ・荷物の運搬と仕分け<重量物の運搬、机・椅子並べ>
- ・メール便の運搬と仕分け
- ・箱作りや段ボール箱の処理
- ・作業製作作品（製造物・生産物）の点検・選別
- ・商品の袋詰め・箱詰め・包装（ラッピング）・梱包、検品（照合）、発送業務
- ・ピッキング（棚卸し）、在庫管理<文具他既製商品のピッキング、コンセントの部品のピッキング>、倉庫への収納、くらし、
- ・在庫調査（帳簿の記入、管理）、教材の整理、補充数算出、倉庫の整理・管理
- ・衣類たたみ<タオルの整理・梱包>
- ・皿洗い・ふき取り・保管、食堂での食器洗浄

以上に、題材は販売（値札付け、陳列、接客応対、金銭授受、売り上げ計算など）や事務（各

種の伝票記入や処理など)の学習内容が絡まって展開されている。

K校は、印刷、木工、縫製、窯業、園芸の5つの作業コース(班)において、年間を通して、製作(生産)物に関連した「販売」や「商品管理」「事務」の内容や作業活動を多く取り入れている。「商品管理」の学習内容について表1にまとめた。検品検査(製品の点検)の他に、販売準備にかかわる作業内容(選別、計量、袋詰め、包装、箱詰め、定価の決定、値札作り、値札つけ)が多い。作業班では、日々の生産物を地域の人々に販売している園芸コースは「商品管理」の学習内容が多い。⁴⁾

表1 各作業コースが実施する「商品管理」の学習内容 K校 (2007年度)

	印刷コース	園芸コース	縫製コース	窯業コース	木工コース
製造物・生産物<販売物>	カレンダー、Tシャツへの印刷	花卉園芸、農作物、ドライフラワー等	カフェエプロン、給食袋セット、座布団等	銘々皿、一輪挿し	フラワーチェア、名刺入れ
・倉庫への収納、くらし		○			
・倉庫の整頓(管理)		○			
・帳簿の記入		○			
・検品(製造物・生産物の点検)、選別	○	○		○	
・軽量(一定量の測定)		○			
・小袋や包装紙の準備	○	○			
・袋詰め		○			
・包装(ラッピング)	○		○		○
・箱詰め				○	
・値札作り、値札付け		○	○	○	○
・各種伝票の準備					
・会計準備	○				

(注 ○印が実施)

サービス業や物流拠点の事業所で行われている業務といえば、運輸や倉庫内作業(宅急便やメール便の運搬・仕分け)、商品の梱包、検品などが基本的な業務である。学校における学習内容(題材)は多種多様であるが、解説書に例示された、5つの学習活動(・箱詰めやパレット積みなどの品物の収納に関する事、・倉庫における保管に関する事、・台車、コンベア、フォークリフト等を使った商品の運搬方法の知識と技術に関する事、・運送に関する事、・商品管理に必要な伝票の記入と取扱いに関する事など)に比べると、極めて限定している。

5 3年間の指導計画

「商品管理」の3年間の指導計画を分野(教科)として実施している3校についてみる。

A校は、従来から履修している工業科、農業科の科目に加えて、2003(平成15)年度より[流通・サービス]科の多種類の分野を加えている。[流通・サービス]はどのコース(班)も2年次から週2単位時間ある。2年次と3年次の年間指導計画を表2に示した。[流通・サービス]には「商品管理」、「事務」の他、「清掃」、「販売(接客)」などの分野も加えている。その中で「商品管理」は(皿洗い・ふき取り・保管、食堂での食器洗浄の見学)、(kg、g単位の計算、袋詰め)(包装・梱包、ダンボール組み立て)など実務作業が多い。3年次は、2年次の内容に加えて、伝票処理、運搬、在庫管理が加わる。³⁾

B校は、「商品管理」の内容を扱う科目「バックヤード(物流)」の3年間の学習計画を表3

表2 「流通・サービス」年間指導計画

A校 (2007年度)

月	2年生	3年生
4	<オリエンテーション> ・内容、授業の進行方法の説明 2 h <商品管理>	<オリエンテーション> <接客> (販売) ・あいさつ、身だしなみ、職場のマナー 2 h <商品管理>
5	皿洗い ・皿洗い、ふき取り、保管 ・食堂での食器洗浄の見学 8 h 計量 ・Kg、gの単位の計量(砂など) ・袋詰め 8 h <校内実習> ・タイプ別作業 2 h	袋詰め ・玉の袋詰め 8 h <伝票処理> ・注文受付 8 h ・弁当の盛り付け 8 h ・配達 8 h
6	(前期体験実習－2 h) <事務> 事務機器の扱い	<校内実習> ・タイプ別作業 2 h (現場実習－4 h)
7	・印刷機、シュレッダーの用途と扱い方 ・パソコンの基本操作 ・ワープロソフトによる文書入力	<事務機器> ・印刷機の扱い方 ・シュレッダーの扱い方
9	・簡単なビジネス文書の作成 16 h <商品管理> 包装・梱包 ・箱の包装	・パソコンの基本操作 ・表計算入力(excel) 14 h
10	・ダンボールの組み立て 8 h	<清掃> ・効率のよい準備、清掃 ・洗剤の扱い方
11	<清掃> ・効率のよい清掃の方法(教室、トイレ、廊下など) 6 h	・ポリッシャーの扱い方 6 h <運搬> ・重量物の運搬
12	<接客> ・文化祭販売実習実践練習 2 h <計量> ・ピッキング、部品番号と部品の照合	・机、椅子並べ 6 h <接客> ・文化祭販売実習実践練習 2 h <接客> ・電話での対応
1	・総合的な演習 6 h <校内実習>	・電話でのメモ 6 h <在庫管理>
2	・タイプ別作業 2 h (後期体験・現場実習－4 h)	・流通教材の在庫確認 6 h ・教材の整理
3	<衣類たたみ> ・タオルの整理、梱包4 h 【70時間】	【64時間】

表3 科目「物流」の目標・内容・3年間の学習計画

B校

(2007年度)

科目	物流	教科書(予定)	イラスト版お金の仕事(共同出版)
教室	流通センター・オフィスサービス実習室	展開	生徒16名・指導者6-8名
目 標	物流について基礎的な知識や技術の習得をめざす。 流通加工・物流情報処理の一環として、印刷に関する基礎的な知識や技術の習得をめざす。 学習や実習の過程で仕事に対する責任感を培い、働くことへの意欲と態度を養う。		教材等
基礎的内容	(1)物流に関する基礎的な知識・技術を習得する。 (2)社会生活に必要な日常的な技能や知識を習得する。 (3)物流現場の基本的な技能や知識を習得する。 (4)印刷に関わってゆく技能や知識を習得する。		作業服・各種帳票 各種事務文具・計算機・ 各種情報処理機器・ 印刷機・台車
発展的内容	(1)物流に関する基礎的な知識・技術を活用し実習する。 (2)社会生活に必要な日常的な技能や知識を活用し、実習する。 (3)物流現場の基本的な技能や知識を活用し、実習する。 (4)印刷に関する基本的な技能や知識を活用し、実習する。		作業服・各種帳票 各種事務文具・計算機・ 各種情報処理機器・ 印刷機・台車

3年間の学習計画

	1年	時間	2年	時間	3年	時間
前期	基礎オリエンテーション	11	照合・検品	18	梱包・結束	15
	正しい文具の扱い方	20	在庫調査・仕分け	18	収納・転記	15
	台車の使い方	17	印刷実習(掲示物作成)	18	印刷実習(名刺作成請負)	
後期	梱包・配置・陳列について	28	ファイリング	10	分類	15
	印刷実習(パンフレット類)	20	包装	14	補充数算出	15
			ピッキング	12	印刷実習(年賀状作成請負)	18
			印刷実習(メモ・カレンダー)	12		
	計	96	計	96	計	96

に示した。取り扱う内容は2段階で示されており、基礎的内容の段階は基礎的な知識・技術の習得で、発展的内容の段階は基礎的な知識・技能を活用し実習する段階である。(梱包・配置・陳列)(照合・検品)(在庫調査・仕分け)といった実務作業が中心であるが、流通・加工・物流情報処理の一環として、パンフレット類やメモ・カレンダー、名刺や年賀状作成の「印刷」の請負作業に関連して、「商品管理」の内容が取り扱われている。^{10) 11)}

C校は、2年次から、「ものづくりコース」と「流通・サービスコース」(「商品管理・販売」「清掃・福祉」)のいずれかを選択するが、「流通・サービスコース」の教科[流通・サービス](商品管理・販売)の内容を表4に示す。特に、2年次の商品管理の内容は、循環型流通作業(ピッキング1:文具他既製商品のピッキング、ピッキング2:コンセントの部品のピッキング、組み立て、棚卸し)である。3年次も題材は2年次に同じである。^{1) 2)}

ものづくり中心であるA校やC校においても、[流通・サービス]の分野を実施するようになってきたが、現在も職業教育の中心はものづくりであるため、「商品管理」は2年次以降の履修となっている。これに対して、第3次産業を中心に職業教育を行う、新しいタイプの学校であるB校は3年間のカリキュラムに基づいている。いずれにせよ、前半期に商品管理に関する基礎的、基本的な知識と技能を身に付けて、授業で作業を繰り返す中で、知識の理解、技能の向上、作業態度の成熟が図られる。3年間の後半では、繰り返し経験することで、安全と作業

表4 流通・サービス科（商品管理・販売）の年間指導計画<第2学年>

C校(2007年度)

予定時数140時間		
	題材・単元名 指導目標	指導内容
4	オリエンテーション ・作業上の注意事項を確認し、安全に取り組む態度を高める。 ・商品管理・販売の概要を知り、見通しを持って取り組む。	・作業時の服装、実習室の使い方や注意事項の確認 ・商品の生産から販売までの大まかな流れと仕事の説明 ・日報の説明
5	循環型流通作業 ・指示に従って作業に取り組み、正確に作業に取り組む。	ピッキング1 《作業工程》
6	・作業に必要な道具や機械の名称、使用方法を覚えて適切に扱う。 ・指示書を理解し、指示書の流れに従って作業に取り組む。 ・伝票や商品を適切に扱い、作業に取り組む。	①指示書の確認 ②棚からの選択 ③点検（バーコードリーダー） ④箱詰め ⑤納品（発送先、期日別）
7	<作業内容> ・ピッキング1 文具他既製商品のピッキング ・ピッキング2 コンセントの部品のピッキング、組み立て	ピッキング2 ①指示書の確認 ②棚からの部品のピッキング ③組み立て ④点検（バーコードリーダー） ⑤箱詰め ⑥納品（発送先、期日別）
9	・棚卸し ・棚卸し	棚卸し 《作業工程》 ①指示書の確認 ②在庫数の確認 ③報告書の作成
10	接客・販売	学校祭でのカフェ
11	・顧客が喜ぶことや人の役に立てること、働く喜びを感じながら接客する。 ・顧客の要望に対応する態度を高める。 ・コミュニケーションを図りながら協力して作業を進める。 ・販売に必要な機器の名称や利用法を覚え正しく扱える。	・カフェの仕事内容の確認 ・機器（レジスター）の利用 ・接客態度 ・店内の環境整備（ポップやメニュー）
12	データ入力	エクセルの使用
1	・情報処理機器を正しく扱える。 ・データを正確に入力する態度、技能を高める。 ・集中して最後まで入力作業を続ける態度を高める。	・資料を元に数値データの入力 ・一覧表の転記（数値データ）
2	1年間の反省 ・1年を振り返り、作業での反省点を見つけ、3年生に向けて自分の課題を考えることができる。	・1年間の反省 ・自分の課題を考え、発表する
3		

技能を一層意識した、より実践的な態度を身に付けるように計画されている。

6 年間授業時数・週授業時数

「商品管理」を分野（教科）として実施し、計画的に授業時数を確保している3校についてみる。

A校では、2年次で、(kg、g単位の軽量、袋詰め)（包装・梱包、ダンボール組み立て）などで24時間、(印刷機、シュレッダーの用途と使い方)などで16時間、(ピッキング・総合的な演習)6時間など、計70時間行う。3年次では64時間を行う。³⁾

B校は、「商品管理」の内容を扱う科目「バックヤード（物流）」は、3学年にわたって展開し、年間96時間である（年間は35週）。「商品管理」の学習内容は、1年次前期は「基礎オリエンテーション」（11時間）と「台車の使い方」（17時間）などがある。後期は、「梱包・配置・陳列について」（28時間）などである。2年次は、「照合・検品」（18時間）、「在庫調査・仕分け」（18時間）、「ファイリング」（10時間）、「包装」（14時間）、「ピッキング」（12時間）など実務に時間を取っている。3年次には、「梱包・結束」（15時間）、「収納・転記」（15時間）、「分類」（15時間）、「補充数算出」（15時間）といった、発展的内容が含まれる。^{10) 11)}

C校では、2年次の「流通・サービス」コースの教科[流通・サービス]は、「商品管理・販売」と「清掃・福祉」合わせて週6単位時間である（年間210単位時間）。3年次も同じである。「商品管理・販売」（2年次）の予定時数は140単位時間で、3年次も140単位時間である。^{1) 2)}

7 用具・機材等

各種事務文具と各種情報処理機器、印刷機、台車などで、輸送や宅配の事業所で使用する専門的な機材はない。使用教室は一般の作業室であるが、B校は物流センターと呼ぶ倉庫（240㎡）を持つ。作業スペース（160㎡）と事務スペース（80㎡）がある。作業スペースはフォークリフトや軽トラックが稼働できる広さであり、今後は倉庫内作業を想定した学習（大型荷物の運搬や仕分け）を予定している。

8 使用教科書

輸送や宅配会社の紹介ビデオはあるが、マニュアル（指導教本）はなく、各教師自作のプリント等が作成されている。指導の水準維持のためには、基礎的、基本的な内容や取扱いについての共通化された教材が必要である。B校では、基礎的内容の学習において、高校の「ビジネス基礎」（実教出版）、「商品と流通」（同）を使用している。

9 評価について

各題材について、学習内容ごとの評価を行う。総合的、実践的な作業能力と態度を中心に評価する。生徒の働く喜びの対象（賞賛や承認を得る、役割確保をする、満足感や成就感を得る、向上心や貢献意識を満足させるなど）を把握する。作業学習の特性で、繰り返し同じ題材を行うので、理解、技能、態度の変容過程とつまずきに注目する。生徒自身と生徒同士による目標設定と評価も必要である。

10 その他

K校では、外部の常設販売や各種イベント販売時に、外部機関や校内の各作業コース（班）

との連絡調整を行うコーディネーターの役割を行う、支援員（教員）1名配置がされており、生産活動と流通をスムーズに結び付けている。⁴⁾ この役割と活動を生徒の学習内容とすることで、新しい展開が期待できる。

IV. 授業設計

1 題材と本時の目標設定

Ⅲの3で記述したように、「商品管理」の具体的な学習内容を履修することで、教科[流通・サービス]の目標を達成することが目指されるが、学習内容は授業において学習活動として組み立てられる。「商品管理」に関する基礎的・基本的な知識と技能、さらには実践的な態度の育成にあたって、目標の範囲（項目）は<服装（身だしなみ）や言葉遣い><衛生管理><器具・機械の使用><技術の習得><責任、協力><効率についての意識><質問や報告><自己評価>など多岐にわたる。題材の目標、さらには本時の目標について、K校の例を以下に挙げる。⁴⁾

K校： 題材「ハーブの入浴剤づくり」（全74時間）

題材の目標

- ・ハーブの乾燥・加工及び配合・包装の方法を知る。
- ・秤を使い、正しく計量できる。
- ・自分の役割を理解して作業する。
- ・清潔を意識し、商品を丁寧に扱う。

⇒ 本時の目標（「袋詰め、計量、包装」 51～60時間/74時間）

<技能目標>

- ・袋に適量を素早く入れることができる。（C男（2年）、D男（2年））
- ・秤で正確にグラム数を読み取ることができる。（E子（2年）、B子（1年））
- ・ハーブの袋を折り目正しく閉じることができる。（J男（3年）、G子（3年））
- ・セロファン袋の中に、デザイン表紙を丁寧に挿入できる。（F男（3年）、H男（3年））
- ・セロファン袋に、丁寧にハーブの袋を詰め、密封することができる。（I子（3年）、A男（1年））

<態度目標>

- ・周囲の安全に気をつけ、自分の作業に集中することができる。（C男（2年））
- ・次の工程に配慮しつつ、自分の役割を責任をもって果たす。（D男（2年））
- ・言葉遣いに気をつけ、最後までてきぱきと作業することができる。（E子（2年））
- ・周囲の作業を意識し、臨機応変に行動することができる。（B子（1年））
- ・気付いたことや分からないことがあれば、進んで支援者に聞くことができる。（J男（3年））
- ・無駄口を減らして、丁寧な作業をすることができる。（G子（3年））
- ・指示後の動作を早くし、てきぱきと作業することができる。（F男（3年））
- ・準備から時間を意識して最後まで作業することができる。（H男（3年））
- ・作業長として、大きな声で点検・報告の挨拶や仲間への指示ができる。（I子（3年））
- ・てきぱきとした報告や行動を意識して、意欲的に作業に取り組むことができる。（A男（1年））

2 学習グループ（作業活動の単位）

作業種「商品管理」は各題材について、繰り返し作業を行う必要がある。繰り返し作業を行うことで目標に近づくことができる。その際、経験や技能の違いのある複数学年が合同で行い、上級生が下級生をリードしながら作業を行えるようにすることで、より効果も期待できる。

3 授業（本時）の展開

授業の展開（流れ）は、概ね、はじめの挨拶、本時の作業確認（作業日誌記入）、用具の準備、作業場所の確認・移動、作業活動、片付け・清掃、用具の片付け、作業日誌の記入・反省、まとめ、終わりの挨拶である。

生徒の主体的な動きを多くするために、直接のプロンプトを少なくし、作業活動ごとに細かい工程、用具の準備、生徒の協力の様子、仕上がりの確認などが示されてある作業手順表（作業工程表）を活用できるようにさせる。

また、作業終了後、作業日誌で自己評価することにより、次回への目標として見通しが持てるようにする。生徒同士で相互評価も行う。

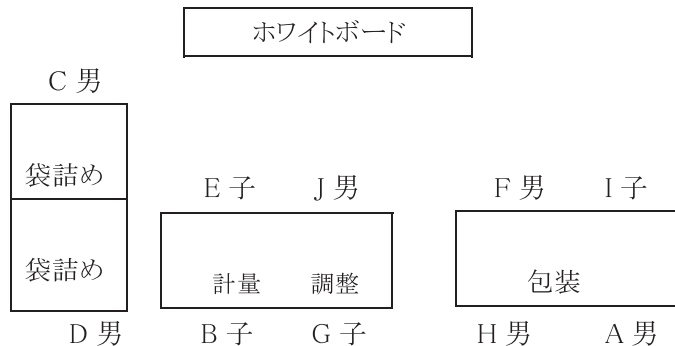
本時（「ハーブ入浴剤の袋詰め、計量、包装」）の展開（例）を以下に挙げる。

	学習活動	支援者の手立てと留意点
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始業の挨拶(元気に挨拶する。) ・ 点呼 (はっきりと返事をする。) ・ 服装のチェック(生徒同士でする。) ・ 各自、作業内容、作業目標を確認する。 ・ ハーブの入浴剤の製作工程を復習する。 ・ 自分の作業内容と役割を確認する。 ・ 自分の作業の配置場所と使う道具を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人目標が作業日誌に記入できているかを点検する。 ・ 製作工程表を呈示する。 ・ 役割分担表を呈示する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業を開始する。 C男、D男 ・ お茶パックとハーブの入ったコンテナを準備する。 ・ 適量の感覚をつかみ、素早く計量係に回す。 E子、B子 ・ 秤を組み立て準備する。 ・ 袋を秤に乗せて、g数を正確に計る。1回の計量の度に、点検を受ける。 J男、G子 ・ 箸を準備する。 ・ 箸の先を使って、袋の角をとる。3袋出来上がり次第、点検の報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両手を使って作業ができているか、計量係と連携が取れているかを確認する。 ・ 点検を素早く行い、点検後も素早く作業に戻れるように促す。 ・ 報告の時、はっきりした言葉遣いのできるようにする。集中が持続できるように、適宜注意を促す。

<p>展開 (60分)</p>	<p>F男、H男</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セロファン袋とデザイン表紙を準備する。 ・セロファン袋に向きを考えて、丁寧にデザイン表紙を挿入する。 <p>I子、A男</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青トレイを準備する。 ・袋を丁寧に向きを揃えて詰め、一度で密封する。 ・密封する前に点検を受ける。 ・出来上がった製品数を確認する。 ・作業を終了する。後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙の向きが合っているか、適宜確認する。 ・はっきりした声量で報告するように促す。
<p>まとめ (15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業日誌に反省を記入し、点検を受ける。 ・本時の反省を踏まえ、次回の個人目標を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容を振り返らせ、反省が書けるようにする。 ・本時の反省を踏まえて、次回の個人目標を立てるように促す。

参考資料4)をもとに作成

<作業配置図>



<評価の観点>

- ・袋詰め、調整の作業を理解し、丁寧にできる。
- ・正しく計量できる。
- ・点検・報告ができる。
- ・清潔に商品を扱うことができる。

4 生徒へのかかわり方

一人ひとりの学習課題について確実に取り組めるように、一定範囲の対象に限定し、成功体験が得られるようにすることが必要である。また、できるだけ独力ですすめるには、作業工程表や作業室や材料等の所在場所を見取り図に示すなど、補助具の活用・工夫が必要となる。

出来上がった製品数を数えたりすることで、達成感、満足感、充実感を実感させる。できたことに対しては、繰り返し褒めたり、感謝したりして、自信をつけさす。服装や身だしなみは、

安全と責任を自覚させるためにそのつど注意し、徹底させる。顔写真入りの名札を着用したりし、自分の仕事に対する責任感を高める。出来ばえ（到達程度の確認）の判断が十分でない生徒には、指示された手順どおりに進めることを徹底させる。

5 評価について

作業手順（工程）ごとに必ず、評価を与え、十分でない工程について課題を持たせる。生徒が出来ばえを自己評価できるようにさせたい。「こうすれば、できたといえるか」の判断、生徒自らが自分の中に適切な判断基準（周囲の人からの評価に耐えられるもの）を持つようにさせたい。

V. 課題と今後の方向

・「商品管理」の学習機会を確保するためには、製造・生産（ものづくり）の作業種目と商品管理、事務、販売の作業種目を併置し、作業活動の連携、融合を図る必要がある。学校全体の作業班の製作・生産計画について、販路拡大の可能性に基づき、製作・生産の規模を拡大し、生徒による「商品管理」の組織的運営が検討されなければならない。

・バーコードによる多種類、大量の製作・生産物についての一括管理のシステムなど、特別支援学校における導入の検討が必要である。

・職業自立を図るためには、産業現場等における実習（現場実習）が重要になる。長期にわたる現場実習の計画や、物流現場の作業内容や作業活動の進め方を学校における作業学習等にかに導入するか、などの検討が急務である。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、聞き取り調査にご協力いただいた特別支援学校の先生方に深謝いたします。

文献 参考資料

- 1) 愛知県立半田養護学校桃花校舎 教育課程（コース制の概要について）（4ページ） 2007
- 2) 愛知県立半田養護学校桃花校舎 年間指導計画（コース制）（12ページ） 2007
- 3) 愛知県立春日井高等養護学校 平成19年度 流通・サービス年間指導計画（2年）（3年）（2ページ） 2007
- 4) 各務原市立各務原養護学校 平成19年度研究紀要 2008（51ページ）
- 5) 文部省 盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領 1999 pp. 高98-高101
- 6) 文部省 盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領（平成11年3月）解説—各教科、道徳及び特別活動編— 2000 pp. 603-608
- 7) 文部科学省 : 平成20年度特別支援教育資料 2008
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/material/1279975.htm
- 8) 文部科学省 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領 2009 p. 196

- 9) 文部科学省 平成21年度新教育課程説明会資料（特別支援学校）高等部総則等 2009 pp. 387-390
- 10) 大阪府立たまがわ高等支援学校 平成19年度学校教育計画（21ページ） 2007
- 11) 大阪府立たまがわ高等支援学校 教育課程 資料 平成19年7月9日作成（教務部）（4ページ） 2007
- 12) 渡辺明広 知的障害養護学校高等部の作業学習等における作業種「清掃」－教材の構成と授業設計－ 静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）第57号 2007 pp.185-198
- 13) 渡辺明広 知的障害高等特別支援学校（特別支援学校高等部）における「流通・サービス」の実施状況についての調査研究 特殊教育研究 47（1） 2009 pp.23-35
- 14) 全国特別支援学校知的障害教育校長会キャリアトレーニング編集委員会編 キャリアトレーニング事例集 事務サービス編 ジアース教育新社 2009 pp.64-75

